

受験番号

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この部分は

著作権の関係で掲載できません。

受験番号

(注) 1 水滴：墨を使うときの水をいれておくための容器。

2 うわぐすり：陶磁器を焼く前に表面にかけて、色をつけたり水分の吸収を防いだりするためのもの。

問1 — 線 「a」に入ることは次のの中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

ア	ぼっかり	イ	じりじり	ウ	うすらと	エ	するする
				a		b	
				c		d	

問2 — 線 「窯の中はまだあつい」とありますが、器が高温で焼かれていることがわかる一文を、本文中の—線より前の部分から探し、初めの五字を書きなさい。


問3 — 線 「ふいに楊はつまらなくなった」とありますが、なぜつまらなくなったのかを四十字以内で書きなさい。


問4 — 線 「もっといいもの」とは具体的にはどのようなものですか。本文中から十字でぬき出して書きなさい。

--	--	--	--	--	--

問5 — 線 「楊は、父親にはできないことを今に自分がするのだと、いつも心に思っていた」とありますが、楊がしよつと思っていたこととはどのようなことですか。二十字以内で書きなさい。


問6 — 線 「本当にそうだろうか」と疑う「について、あとの問いに答えなさい。

(1) 何を「疑う」のですか。本文中から二十字でぬき出して書きなさい。


(2) なぜ「疑う」のですか。その説明として最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 幼いころに作った皿は、技術的には上手でなくても純粋いな心があらわれて深みがあると感じるから。
- イ 名人と呼ばれるようになった今になって、実は父親の作るものの方がはなやかであると気づいたから。
- ウ 目立たなくてじみだと思っていた父親の作品に、自分の作品がおよばないのではないかと思ったから。
- エ 自分の作品は名声を得ているが、それ以上にうわさが大きくなりすぎて実力が追いついていないから。

--

問7 — 線 「この水滴は、祖父の代から大切にしていたものなのです」とありますが、若者が水滴を大切にしていた理由を二十字以内で二つ書きなさい。



問8 本文を三つの段落に分けるとすれば、二段落目と三段落目はどこからですか。初めの五字をそれぞれ本文中からぬき出して書きなさい。

一段落目									
二段落目									

問9 — 線 「楊は、あつとおどろいた」について、あとの問いに答えなさい。

(1) 楊は何におどろいたのですか。解答らんに当てはまるように、七字以内で書きなさい。

桃花片の水滴は 

--	--	--	--	--	--

 とくうじつ。

(2) このとき、楊はあることに気づきます。その説明として最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア ふだん使う作品を作り続けた父は、手元にあるだけでいやされるような作品を少しでも安く作ることにこだわったということ。
- イ 農家で使われた水滴のように、父の焼き物は見た目の美しさには欠けるが非常に使いやすくじょうぶなものであるということ。
- ウ 農家の若者が持っていた水滴は、楊が父には作ることができないと決めつけていた美しい鑑賞用の焼き物であったということ。
- エ 美しさを使いやすさをあわせ持った父の作品は、価値が低いどころかいつまでも愛される素晴らしいものであったということ。

--

受験番号

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この部分は、  
著作権の関係で掲載できません

問1 a c に入れることばを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

ア さて イ でも ウ なぜなら エ また オ つまり

a	
b	
c	

問2 — 線 「人を区別することは大切ですし必要なことです」とありますが、その理由として最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 社会の中で、人は多くの区別の中に位置づけられ、それに応じた役割を果たしているから。
- イ ささまざまな役割を人々が同じように引き受けることによって、社会がうまく成り立っていくから。
- ウ 能力の高さによって人を区別することで、立場の異なる人たちをまとめることができるから。
- エ 一人一人が区別されることに慣れることで、それにふさわしい態度を身につけていくから。

--



